

2015神戸マラソンにおける ウェアラブル実証実験

- 1) 『一般的な活動量計』を用いたマラソンパフォーマンス分析の検証
- 2) 『高精度測位サービス』のスポーツでの活用検証
- 3) 具体的な実験の進め方

アシックス 経営企画室

坂本 賢志

『一般的な活動量計』を用いたマラソンパフォーマンス分析の検証

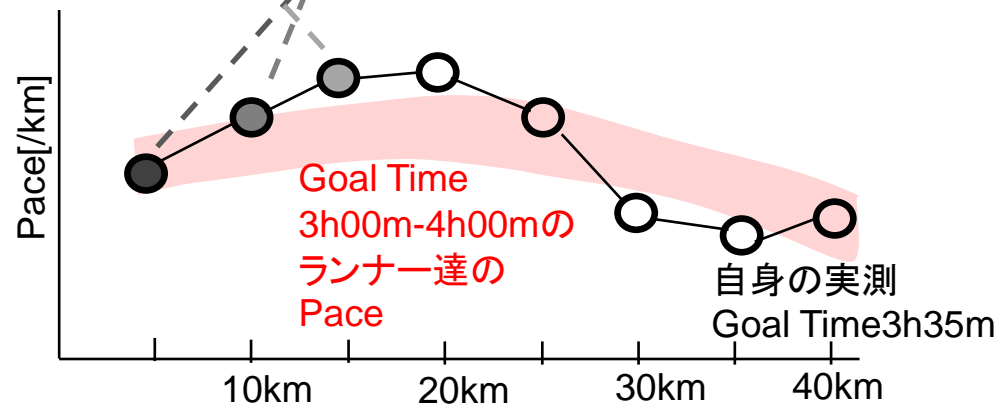
数十人の協カランナーを一般公募し、リストバンド型ウェアラブルデバイスを装着して走ってもらう。



5km毎のペース、歩数、歩幅などを分析し、お客様の次のマラソンに向けてのトレーニングポイントを明らかにする。

デバイスを装着してトレーニングする事により、効果を自己分析できる。

楽しく、スポーツをする機会を提供でき、健康意識向上に繋がる。



『高精度測位サービス』のスポーツでの活用検証



JAXA(宇宙航空研究開発機構)が運営する、準天頂衛星『みちびき』は、通常のGPS信号に比べて精度の高い測位信号を送信できる。

今後、この信号を受信できるデバイスが各メーカーから発売されると考えられるが、SONYとアシックスで協業している「スマートヘッドフォン」は、いち早く『みちびき』の信号を受信できる機能を搭載した。

これにより、従来のGPS走行軌跡追跡では不可能であった高層建造物の間や、林の中などでも軌道追跡できる可能性があるので、神戸マラソンにおいて、スポーツシーンにおける、『みちびき』の高精度測位サービス活用を検証するものである。

明石市のほぼ真北にある 神戸市西区は『日本標準時子午線(東経135)』が通っていたり、神戸航空衛星センターを有していたりと、天文の世界と関係は深い。

実験告知—分析結果報告までの流れ

10/16

- ・アシックスホームページにて実証実験実施の告知
- ・同ページにて参加者 一般募集

マラソンEXPO—当日

- ・次ページ

マラソン後

- ・協力者へ結果を提供(メールもしくは郵送)

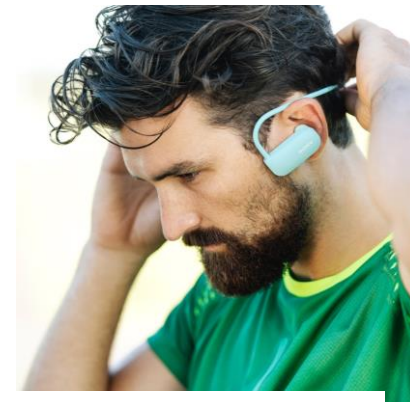
使用デバイス(装着状態)



Smart Band
40人
※一般公募



Smart Watch
約10人
※一般公募



Smart Head phone
約10人
※アシックス関係

マラソンEXPO—当日 手順

マラソンEXPOにて:

- ・ASICSブースにて当選者発表
- ・実証実験手順 説明会実施(4回/日)
- ・当日デバイス引換券 手渡し

マラソン当日 Start地点

- ・受付場所①(調整中)にて、引き換え券とデバイス

マラソン中

- ・5km毎に『ウェアラブルデバイス ON』のプラカードを

Goal地点

- ・デバイス引取り場所②(調整中)
にてデバイス回収

No.01 デバイス引換券(イメージ)

ゼッケンNo		
氏名		
住所	プレゼントを送付して良い住所	〒
性別	分析のため	
目標GoalTime		:
メールアドレス	結果をお送りして良いアドレス	



場所①
(アシックスストア前)

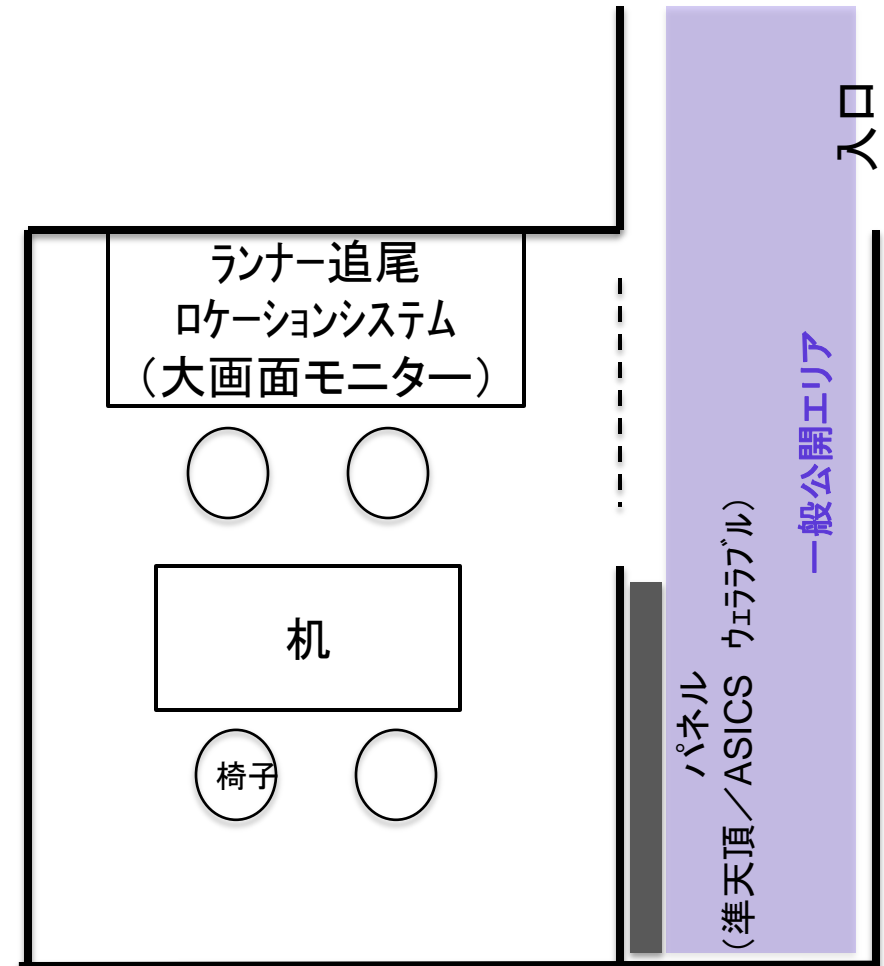


場所②
(バナナ配布場所の後)


ウェアラブル基地イメージ



ウェアラブル基地の場所
 (ポートアイランド)



- ウェアラブル基地内 イメージ
 (アシックス本社 ミュージアム内
 11/15 一般公開)